

学校番号	15	学 校 名	東部特別支援学校伊東分校	校 長 名	佐々木 雅則
------	----	-------	--------------	-------	--------

1 目指す学校像

(1) 学校教育目標 「つたえあう つくりあう たかめあう人」

【体】 つくること、はたらくことを楽しむ人

【知】 豊かなコミュニケーションができる人

【徳】 生活する力がつき、感性や生活の質を高めていく人

学校教育目標の具現化に向けて、児童生徒の生命と健康を尊重し、一人一人の個性の伸長と自己実現を支援する教育に努める。そのために、目標具現化の柱として、以下の〈守る〉、〈育む〉、〈つなぐ〉、〈高める〉の4点を掲げ、学校づくりを進める。

(2) 目標具現化の柱

ア〈守る〉安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する。

(ア) 安全・安心を守る学校組織の機能充実

(イ) 人権を尊重した教育、困難を抱える児童生徒への連携した支援

イ〈育む〉高い専門性にに基づき、自己実現に向け、個に応じた指導支援を展開する。

(ア) アセスメントによる課題把握に基づく指導支援

(イ) 年齢段階に応じたキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用

ウ〈つなぐ〉地域の中で共に育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校を目指す。

(ア) 校地が離れた学校間の新たな交流方法・共同学習の工夫

(イ) 地域との一層の連携促進、地域資源の活用推進

エ〈高める〉教職員が互いに高めあい、業務を通して自己実現できる環境を作る。

(ア) 教職員にとって働きがいのある学校を作るための業務改善

(イ) 教職員がそれぞれの強みを生かし、互いに支えあう職場風土の醸成

2 本年度の取り組み（重点目標）

(1) 〈守る〉安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	安全・安心を守る学校組織の機能充実			
	(ア) 予防的な安全確認によるリスク管理	・月1回、校内の安全を複数職員で予防的視点からチェックし、必要箇所には緊急度に応じた対策を講ずる	・予防的点検内容を確認し、安全対策を講じることができた教員100%	保健安全課 企画会
	(イ) 発災時の初動体制共有と1次避難後の対応整備	・地震・火災想定を年2回ずつ、土砂災害想定1回の訓練を実施する。 ・1次避難後の職員対応体制を整備する	・初動体制を理解し、落ち着いて児童生徒を避難させた教員100% ・反省を行い、マニュアルを見直すことができた教員80%以上	防災危機管理課
イ	人権を尊重した教育、困難を抱える児童生徒への連携した支援			
	(ア) 一人一人の人権意識向上と共有	・学期1回ずつ、教員人権チェックまたはグループワークを実施。	・人権意識が深り、児童生徒の指導へ生かすことができた教員100%	生徒指導課
	(イ) 人権教育年間指導計画の活用	・年度初めに人権教育年間指導計画を作成し、適宜評価し改善に努める。 ・人権教育年間指導計画に基づき、児童生徒への指導支援を行う。	・教員が人権教育年間指導計画を意識して、児童生徒への指導支援を行うことができた教員が80%以上	生徒指導課 各学部

様式第 1 号

(2) <育む> 高い専門性に基づき、自己実現に向け、個に応じた指導支援を展開する

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	アセスメントによる課題把握に基づく指導支援			
	(ア) 個の課題に応じた専門性の高い指導	・児童生徒を、自立活動の視点や認知発達段階等から多角的に実態把握するための研修を行う。 ・子ども理解に基づく課題設定や支援に焦点をあてた授業研究を年 2 回実施する。 ・情報機器の活用事例を紹介し、効果的な利用を促進する。	・1 人 1 人の児童生徒の「良さ」に着目して具体的指導方法を検討して授業を実践できたとする教員 80% ・情報機器活用で分かりやすい、楽しいと感じる児童生徒が 80%以上。	研修課 自立活動課 情報教育課
イ	年齢段階に応じたキャリア教育の充実とキャリアパスポートの活用			
	(ア) 系統性を考えたキャリア教育	・年齢段階に応じてキャリア教育を意識した単元を設定する。 ・個の実態に応じ、振り返りや共有につながるキャリアパスポートを作成する。	・キャリアパスポートを活用した教員、保護者 80%以上	地域連携・進路課

(3) <つなぐ> 地域の中で共に育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校を目指す。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	学校間交流における方法・共同学習の工夫			
	(ア) 新たな方法での学校間交流推進	・スクールバスを使った直接交流と情報機器等を用いたオンラインによる交流、作品展示などの間接交流とをハイブリット形式で行う。	・小学部各学年と伊東小との直接交流が年 1 回以上 ・中学部と伊東北中との共同学習を年間 4 回。	各学部 共生・共育推進委員会
イ	地域との一層の連携促進、地域資源の活用推進			
	(ア) 地域の分校理解推進 新たな地域資源の活用	・年 5 回の分校だよりや H P の随時更新による教育活動の情報発信。 ・関連団体へ学校施設を開放したり共同学習の場を設けたりする	・新校地周辺の方と共に学ぶ場の企画年間 2 回。 ・湯の花商店街との交流活動年間 2 回	学部・学年 情報教育課 地域連携・進路課

(4) <高める> 教職員が互いに高めあい、業務を通して自己実現できる環境を作る。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	教職員にとって働きがいのある学校を作るための業務改善			
	(ア) 不祥事要因の分析によるコンプライアンス研修充実	・不祥事根絶に向けて所属意識を高め、定期的な注意喚起を行う。グループワーク形式の研修により、不祥事要因の分析と検討を行う。	・体罰や交通事犯など不祥事の発生が年間 0 回	管理職 企画会
	(イ) 教育課程全体を見通した行事計画策定と会議等の時間管理徹底	・行事の目的内容を①児童生徒の発達状況や課題、②教育課程全体のバランスの 2 観点から見直す。 ・会議時間は事前提示の上厳守、掲示板活用、資料事前配布、議題予告などで内容を精選する。	・職員会議、学部会等の会議の時間が 60 分以内 100% ・勤務時間外の会議が年間 0 回	企画会 教務課
イ	職員がそれぞれの強みを生かし、互いに支えあう職場風土の醸成			
	(ア) 個々の強み生かした配置と職員相互の理解促進	・職員個々の個性強みを考慮した人事や学部学年分掌内の役割分担 ・長期休業等を活用し相互理解を目的に年 2 回のグループワーク実施	・学校経営に参画できたと考える職員 80%以上 ・グループワークの効果があったと考える職員 80%以上	管理職 企画会